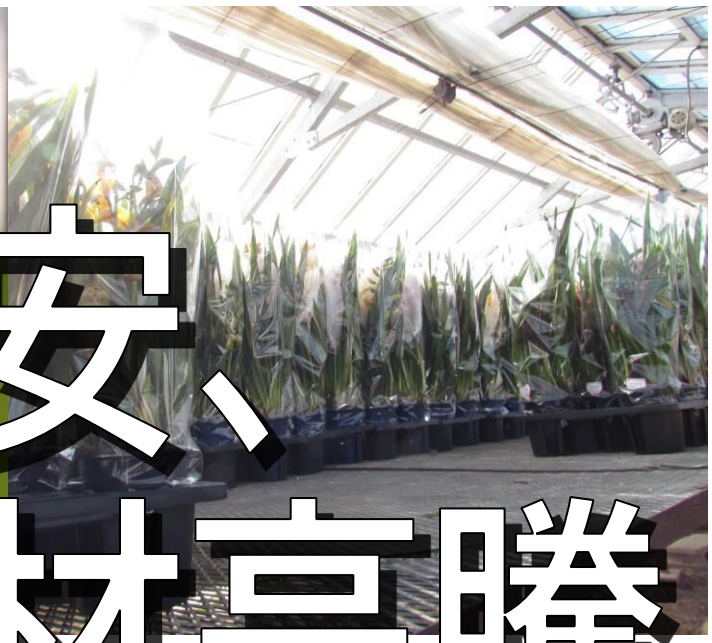

円安、資材高騰いつまで

出荷に向けて作業中。温室一面に洋ランの鉢がびっしり。東京や大阪に出荷するとのこと。3万鉢あるそうだ。

名古屋の夏は、洋ランの生育には暑すぎる。山地で避暑したあと、秋にこちらに戻ってくる。

コロナ禍が始まってからこの数年間は厳しい。ロシアのウクライナ侵攻などによる物流の混乱、資材不足が全世界を巻き込む広範囲で起こった。国や地域で異なった経済政策・景気の変動で、世界の経済が混乱した。

そのあおりを受けた日本でも円安が進み、温室の暖房用燃料が高騰。国産と言っても、原材料は輸入に頼っている資材や肥料の値上がりで、コストが増えている。どこまで出荷価格に転嫁できるのか。

経営が大変な時期に来ている。

（注）取材させていただいたほ場では、一般の方の見学などは行っていません。

撮影場所：　緑区乗鞍
撮影取材日：2022年 11月 16日